Anthropologists (Oakland, California, March-April, 1995). Am. J. Phys. Anthrop., suppl. 20:208.

社会生態研究部門

生態機構分野

杉山幸丸・森　明雄・山極寿一・松村秀一[1)]

研究概要

A）西および中央アフリカに生息する大型類人猿の行動・生態学

杉山幸丸・山極寿一・山越　言[2)]

全個体識別のもとに長期追跡してきたギニア国ボッソウの野生チンパンジーについては、堅果割りを初めとする道具使用行動の詳細な観察とＶＴＲ記録の分析、整理を進める一方、野外実験も含めて、道具使用行動全般について発達と伝播の記録・分析を行った。また、近隣個体群との遺伝的・文化的交流関係の分析のため、隣国のコートジボアールにまで広がるニンバ山地での調査を開始した。さらに、生息地の資源量測定と土地利用、採食量把握の資料を収集した

ガボン国プティ・ロアンゴ保護区では、同所的に生息するゴリラとチンパンジーの生息密度を調査し、海岸林に両種が比較的高い生息密度で生息しており、互いに遊動域を重複させて共存していることが明らかになった。

B）エチオピアに生息するヒヒ類の研究

森　明雄

ヒヒ類の重層社会を行動学的に分析することを目標にしている。昨年からは、エチオピア南部アルシ州で見つけたゲラダヒヒのポピュレーションの調査を行っている。今年の調査では、ゲラダヒヒのヒョウに対する防衛行動の観察や子殺しが行われた証拠を得るなど、新たな発見があった。さらに、ユニット構造が従来の観察に比べて緩やかであるなどの特徴が得られた。これらの新たな知見が得られたのは、新ポピュレーションが、従来観察されたものとは地域的に大きく離れていることや、生息環境が異なるためであると考えられる。さらに、バレ州では、マントヒヒとアヌビスヒヒの雑種化の様相を調べるために、広域調査も行った。

C）スラウェシマカクの研究

松村秀一

マカクの社会行動の進化に関する比較研究の一環として、インドネシア・スラウェシ島に生息するムーアモンキーの野外研究を続けている。1990年以来の資料の分析を進め、彼らの社会交渉の特徴を明らかにするとともに、その進化に関するモデルを提出した。また、αオスの交代が起こった後の集団内の社会交渉に関する現地調査を行った。

D）ニホンザルの採食・繁殖生態と個体群動態の研究

杉山幸丸・森　明雄・山極寿一・Joseph Soltis[3)]・Vanessa J. Hayes[4)]・Xavier Domingo Roura[5)]

ニホンザルの個体の社会的地位と採食・繁殖戦略との関係の解明のため、大分県高崎山、宮崎県幸島、鹿児島県屋久島の餌づけ群および自然群を対象に研究を進めてきた。食物の時間的、空間的分散の変化のもとで性、年齢、社会的地位の相違により採食行動にあらわれる差の把握につとめ、また、栄養量測定に基づく摂取栄養量の把握と、それらが繁殖成功度と関係している様を検討してきた。特に幸島群では、採食スピードの時間的変化の解析と性成熟の遅滞現象に焦点を置き、それらに関わるデータの収集と分析を試みている。また、一時的食物貯蔵庫としての頬袋の使用を、性・年齢・順位との関係で調べた。これは所内エンクロジャー群でも調べ、頬袋容量の計測も行った。

屋久島では、最も果実の種類が豊富な１０－１月にかけて、野生ニホンザルの採食様式を調査し、異なる果実の選択にしたがって群れの遊動コースが変わり、これが群れ間の出会いに大きく影響していることが明らかになった。また、朝、昼、夕刻という異なる時間帯で採食する果実の種類や採食頻度が異なることも判明した。

一方、社会、遺伝子情報、器官調節分野と共同で所内放飼集団において性行動、ホルモン測定と父性判定に基づく両性の繁殖戦略を研究した。これらの戦略と関連して順位、繁殖成功度、個体群動態の長期資料を高崎山および幸島において収集した。

さらに、ニホンザルの全生息数を推定しその動

1)1994年12月１日付けで助手に採用　2)大学院生
3)研究生　4)日本学術振興会外国人特別研究員
5)文部省国費研究留学生

態を環境との関連で解明する研究も進めてきた。

総　説

－英文－

1) Muroyama, Y., & Sugiyama, Y. (1994): Grooming relationships in two species of chimpanzees. In R. W. Wrangham, W. C. McGrew, F. B. M. de Waal, & P. G. Heltne (Eds.), Chimpanzee Cultures (pp.169-180). Cambridge (Mass): Harvard Univ. Press.

－和文－

1) 山極寿一 (1994): 家族の起源－父性の登場. 東京, 東京大学出版会.
2) 山極寿一 (1994): 食の進化論－サルはなにを食べてヒトになったか. 東京, 女子栄養大学出版部.
3) 山極寿一・伏原納知子 (1994): ヤクシマザルを追って (西部林道観察ガイド). あこんき塾.

論　文

－英文－

1) Mankoto, M. O., Yamagiwa, J., Steinhauer-Burkart, B., Mwanza, N., Maruhashi, T., & Yumoto, T. (1994): Conservation of eastern lowland gorilla in the Kahuzi-Biega National Park, Zaire. In B. Thierry, J.R. Anderson, J.J. Roeder, & N. Herrenschmidt (Eds.), Current Primatology, Vol. 1, Ecology and Evolution (pp.113-122). Strasbourg: Universite Louis Pasteur.
2) Mori, A. (1995): Rank and age related feeding strategy observed through field experiment in the Koshima group of Japanese macaques. Primates, 36:11-26.
3) Yamagiwa, J., & Mwanza, N. (1994): Day-journey length and daily diet of solitary male gorillas in lowland and highland habitats. Int. J. Primatol., 15: 207-224.
4) Yumoto, T., Yamagiwa, J., Mwanza, N., & Maruhashi, T. (1994): List of plant species identified in Kahuzi-Biega National Park, Zaire. Tropics, 3: 295-308.
5) Yumoto, T., Yamagiwa, J., Asaoka, K., Maruhashi, T., & Mwanza, N. (1995): How and why has African Solanum chosen the elephants only as the seed disperser? Tropics, 4: 233-238.

－和文－

1) 森明雄 (1994): カメルーン熱帯多雨林における跳ね罠猟 － マイクロ・ハビタットと罠技術に関する認知構造. アフリカ研究, 45: 1-25.
2) 森明雄 (1994): 野生ボノボ(*Pan paniscus*)群における攻撃行動の意味 － 社会変動のストーリー分析 －. 霊長類研究, 10: 229-251.

報告・その他

－和文－

1) ジョン＝カヘークワ・山極寿一 (1994): 「第3のゴリラとポレポレ基金」ポレポレ基金.
2) 大澤真幸・山極寿一 (1995): 家族の起源をさぐる (上)、「本」(1995年1月号), 20(1): 33-41. 講談社.
3) 大澤真幸・山極寿一 (1995): 家族の起源をさぐる (下)、「本」(1995年2月号), 20(2): 47-53. 講談社.
4) 杉山幸丸 (1994): 「霊長類研究」の研究. 霊長類研究, 10: 105-112.
5) 杉山幸丸 (1994): 大会の運営と学会の活動について －第15回国際霊長類学会大会から. 霊長類研究, 10: 113-117.
6) 山極寿一 (1994): ゴリラとポレポレ基金. DKM マネジメントレポート, 318: 50-51.
7) 山極寿一 (1994): 学ぶ島としての船出を期待する. 生命の島, 32: 12-15.
8) 山極寿一 (1995): 家族の起源をさぐる. CEL, 31: 27-29.
9) 山極寿一 (1995): 類人猿の姿にみる「社会学的父性」の芽生え. Human Sexuality, 18: 42-47
10) 山極寿一 (1995): ジャングルとの対話. 兵庫教育, 528: 4-7.
11) 山極寿一 (1995): ゴリラの遊びに学ぶこと. SESAME, 104: 110-111.

12) 山極寿一 (1995): ゴリラのまなざし. 月刊みんぱく, 210: 2-7.
13) 山極寿一 (1994): マウンテンゴリラと東ローランドゴリラの現状と保護. 霊長類研究, 10: 347-362.

学会発表

ー英文ー

1) Mwanza, N., Kaleme, K., & Yamagiwa, J. (1994): Conservation and wise use of tropical rain forest of Zaire. 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.123.
2) Mwanza, N., Yamagiwa, J., & Kaleme, K. (1994): Seasonal change in the composition of diet and range-use of chimpanzees inhabiting the montane forest of Zaire. 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.150.
3) Soltis, J., Mitsunaga, F., Shimizu, K., & Nozaki, M. (1994): Female choice in captive Japanese macaques (*Macaca fuscata*). 17th Annual Meeting of the American Society of Primatolgists (Seattle, USA, July, 1994). Amer. J. Primatol. : p241.
4) Sugiyama, Y. (1994): Use of tool-set by wild chimpanzees. 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.91.
5) Yamagiwa, J. (1994): Intra-specific variation in social organization of Japanese macaques. 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.259.
6) Yamagiwa, J., & Mwanza, N. (1994): Ecological frictions within a sympatric population of gorillas and chimpanzees in Kahuzi-Biega National Park, Zaire. 15th Congr.Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.147.
7) Yamakoshi, G. (1994): Pestle-pounding behavior of wild chimpanzees at Bossou, Guinea: A newly observed tool-using behavior. 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.107.

ー和文ー

1) 小嶋祥三・揚妻直樹・岡本暁子 (1994): 飼育下チンパンジーの出会い場面における音声. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 156.
2) 栗田博之 (1994): ニホンザルにおける母子間関係ー母親の順位・出産経験・子の性による違いはあるのかー (予報). 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 153.
3) 松村秀一 (1994): マカカ属のサルにおける優劣関係の種間差についての進化モデル. 第13回日本動物行動学会 (1994年12月, 大阪). 発表要旨集: p.40.
4) 松村秀一 (1995): 社会的緊張下のマカクの行動. 第39回プリマーテス研究会 (1995年2月, 犬山, 愛知).
5) 森明雄・岩本俊孝・河合雅雄 (1994): エチオピア、アルシ州で新しく発見されたゲラダヒヒ社会の特徴. 第3回ナイル・エチオピア学会 (1994年4月, 世田谷, 東京). 講演要旨集: p.10
6) 森明雄・岩本俊孝・河合雅雄 (1994): エチオピア、アルシ州で発見されたゲラダヒヒ社会の特徴. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 130.
7) 岡本暁子・小嶋祥三・揚妻直樹 (1994): 飼育下チンパンジーの出会い場面における社会的交渉. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 155.
8) 岡本暁子・小嶋祥三・揚妻直樹 (1994): チンパンジーの放飼集団における挨拶行動. 日本動物行動学会第13回大会 (1994年12月, 大阪). 発表要旨集: p.41.
9) Soltis, J. ・ 光永総子・清水慶子・野崎真澄 (1994): ニホンザルメスにおける配偶者選択. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 124.
10) 山極寿一 (1994): 自然遺産とエコ・ツーリズム. 第48回日本人類学会・日本民族学会連合大会. 抄録集: p.35.

11）山越言（1994）：ボッソウの野生チンパンジー集団の社会関係．第10回日本霊長類学会大会（1994年6月，東京）．霊長類研究，10：156.

社会構造分野

加納隆至・大澤秀行・鈴木　晃

研究概要

A）中央アフリカザイール森林における野生ボノボの社会及び行動の研究

加納隆至・橋本千絵[1)]

ザイール共和国ジョル地区ルオ学術保護区ワンバ森林においてボノボ（ピグミーチンパンジー）の研究を行っている．ザイールの政情は不安定で現地調査は中断中であるが，研究結果のとりまとめは進行中である．

B）東アフリカタンザニアにおける野生チンパンーの研究：科学研究費補助金（国際学術研究０６０４１０６４）

加納隆至・小川秀司[2)]

タンザニア西部の乾燥地帯でで野生チンパンジーのジェネラルサーベイを行った．小川は１９９４年７－１０月の乾季終末から雨季開始時にかけて，ウガラ丘陵地帯でチンパンジーの密度と植生に関する調査を行い，加納は，１９９５年の１－３月の雨季の盛期に，リランシンバ丘陵の孤立生息域で，密度と植生に関する調査を行った．

C）性淘汰、社会構造に対する要因としての霊長類メスの繁殖戦略

大澤秀行・光永総子[2)]

霊長類における性淘汰、及び社会構造に影響を及ぼすメスの性行動を研究している。メスの生殖生理学的な解析が重要であるため、生理学研究と共同して、これまで放飼場やグループケージ飼育ニホンザルについて調べてきた。

D）アフリカ乾燥サバンナにおけるオナガザルの野外研究

大澤秀行

カメルーン北部のカラマルエ国立公園において、パタスザルとミドリザルの野外研究を1984年より続けている。繁殖期に社会変動と繁殖行動の関係について資料を収集している。1994年度は出産期に、パタスモンキーの群れ雄の地位をめぐる争いに関する資料を収集した。

E）オランウータンの野外研究

鈴木　晃

インドネシア・東カリマンタン州、クタイ国立公園におけるオランウータンの生態学的研究の継続、1994年８月には、現地での観察小屋が完成司、８月１３日には、小屋開きを、現地関係者約６０名の参加の下に行われた。

F）上信越ニホンザル地域社会学的研究の継続

鈴木　晃

上記の課題の継続的調査と、上信越ニホンザル研究林の研究小屋の整備を行った。

G）マカク類の比較社会学的生態学的研究

加納隆至・大澤秀行・松村秀一[1)]
揚妻直樹[1)]・小川秀司[2)]・田中　香[1)]

マカク類の社会進化を明らかにするため、ニホンザル（屋久島・高崎山・嵐山・金華山）および、アジアに生息する他のマカク類（中国のチベットマカク・インドネシアのスラウェシマカク）の社会をその生息地で研究している。

H）タイ国南部の熱帯多雨林と同地域に生息する霊長類に対する保護に関する基礎研究

大沢秀行

1995年1月、タイ国内の数ヶ所の国立公園を対象に生態密度、環境学の予察を行った。

I）その他の哺乳類の社会行動研究

加納隆至・大澤秀行・瀬戸口美恵子[2)]・小林　隆[1)]・柳原芳美[3)]

タイワンリス・半野生馬・アライグマについて、社会行動の調査を行い、霊長類とは異なる視点からも動物社会学的研究を行っている。

総　説

－和文－

1）鈴木晃（1995）：共食いをするチンパンジー．，チンパンジー（pp.96－101）．立風書房．
2）鈴木晃（1995）：やはり社会構造があった，忘れられた類人猿，上．科学朝日．55（5）：41-44.

論　文

－英文－

1）Hashimoto, C., & Furuichi, T.（1994）：Social role and development of

1）大学院生　2）研修員　3）研究生